

「全国制覇しか見えない」

3年ぶり センバツ 光星ナイン、八戸市庁訪問



八戸市庁本館に設置された看板の前で氣勢を上げる八戸学院光星高校の選手たち

3月23日に開幕する第91回選抜高校野球大会(兵庫県西宮市の阪神甲子園球場)に3年ぶりに出場する八戸学院光星高校の選手らが8日、出場報告のため八戸市庁を訪ねた。市は同日、市庁本館に「めざせ全国制覇」と書かれた看板を設置しており、目にしたナインは3年ぶり10回目の出場へ気持ちを高ぶらせた。武岡龍世主将ら秋季大会ベンチ入り選手19人と

仲井宗基監督、小坂貴志部長、小野崎龍一校長、同校甲子園出場協賛会の安井基悦会長の計23人が訪問。看板前で「優勝するぞ」と氣勢を上げた。武岡主将は「選手の気持ちが高まっている。全国制覇しか見えていない」と意気込みを語った。

これに先立ち、一行は小林眞市長を表敬。仲井監督は、東北のチームが春夏の全国大会優勝旗をいまだに手にしていないとして「東北の負の歴史を払拭(ふっしょく)したい。全国制覇を明確な目標に掲げ練習してきた」と語った。小林市長は「出場は大変な練習、試合を重ねて得た素晴らしい成果。平成最後の大会で東北の悲願を果たして」と激励した。

ナインらは同日、東奥日報社八戸支社も訪れ、村林徹支社長に甲子園での健闘を誓った。

(高松拓輝)